

優秀賞

街がオーケストラになる日

畠山 珠悠（高校1年生：秋田県）

このゲームは、プレイヤーの身体のリズムを音楽に変換し、他者と共有することで新しいつながりを生み出す体験型ゲームである。プレイヤーはデバイスを装着し、心拍や歩幅、呼吸、気分の変化などから個人特有のリズムが検知される。そのリズムは一つの楽器の音色として再生され、自分自身が音楽の一部となる。

〈ゲームの流れ〉

自分のリズムから音が生成されるところから始まる。街中で他のプレイヤーとすれ違くと、それぞれの音がAIによって調整され、不協和音にならないように重なり合い、自然な合奏が生まれる。さらに、30人以上のプレイヤーが同じ場所に集まった場合に限り、多数の音が重なって大規模なオーケストラが形成される。このとき、奏でられる音楽に合わせて街灯が光るなど、街全体が演出の一部となる。加えて、この人数条件を満たした状態で生まれた音楽の系統によって天候が変化する仕組みもあり、集団で作る音楽が環境そのものに影響を与える体験ができる。

〈ゲームの特徴〉

このゲームの特徴は、言葉を使わず音楽で他者をつながれる点にある。同じ地域のプレイヤー同士に自然な一体感が生まれ、外に出て人と関わるきっかけにもなる。さらに、定期イベントでは、一人一人異なるパンフレットが配布され、そこには5種類の楽器が示されている。プレイヤーはそれぞれ異なる楽器の音を奏でているプレイヤーを街中で探し、パンフレットに示された5種類の楽器を持つメンバーを集める。全員がそろると、その5人で特別な合奏を行うことができ、協力して音楽を完成させる達成感を味わえる。